

～玉名市まちなかグランドデザイン～

まち1みか'未来図



令和7年3月 玉名市

ごあいさつ

本市は、「玉名市総合計画」や「笑顔をつくる10年ビジョン」において、市民の笑顔づくりに向けて様々な取組を進めています。その一環として、令和5年度から「玉名市まちなか未来プロジェクト」を立ち上げました。

人口減少や少子高齢化をはじめとした地域課題の解決には、市民、民間企業、行政が一体となって取り組んでいくことが重要です。一人ひとりが意見を出し合い、共有しながら行動することで、玉名の魅力を再発見し、地域資源を活用した新たな価値を創造していくことが可能となります。そのためには市民や民間企業の皆様の参加と協力が不可欠です。

この度、本市のまちづくりの指針として「～玉名市まちなかランドデザイン～まちなか未来図」を策定しました。この未来図は、本市の発展をけん引してきた市の中心部（まちなか）を対象に、玉名の素晴らしい歴史や文化、自然、そしてそこで生活する人々の笑顔あふれる暮らしを次の世代へと繋げていくための取組を示しています。そして、その効果を市全域に広げていくことを目指しています。

最後に、本計画策定に当たり、玉名市まちなか未来デザイン協議会委員の皆様をはじめ、まちなか魅力向上委員会委員の皆様や多くの市民の皆様、関係各位から貴重なご意見をいただいたことに対し、心から感謝申し上げます。

本市の発展のため、今後も皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年3月

玉名市長 藏原 隆浩



ごあいさつ

まちなか未来図という聞き慣れない言葉に、「何がはじまるのだろう？」と疑問を持つ方もいるかもしれませんが、私には、大きな期待しかありません。

これまでのまちづくりは、行政だけで決めてしまうことが多く、市民の意見はなかなか反映されませんでした。一方で、市民側も市役所に「あれをやってくれ、これをやってくれ」と要望を伝えるだけで終わってしまうことが多かったのではないのでしょうか。

まちをより良くしていくためには、行政任せにするのではなく、市民が主体となって動くことが大切です。まちとは本来、自分たちでつくり、自分たちで使ってきたものです。まちなか未来図は、そのような本来のまちの姿を自分たちで取り戻すため、また自分たちのまちをみんなで楽しむために策定されたものです。

そして、これはまちなかだけの話ではありません。玉名市には豊かな農村があります。まちなかと農村が連携することで、本当に豊かで魅力的な「いい玉名」になるのではないのでしょうか。

まちなかのこと、むらのこと、一緒に考え、行動し、素晴らしい玉名をみんなでつくっていきましょう！

令和7年3月

玉名市まちなか未来デザイン協議会会長

熊本県立大学環境共生学部 教授 柴田 祐



もくじ

序 章	はじめに 策定の趣旨	5	第 5 章	まちなかエリアの未来図 エリアイメージ、エリアごとの特色 とポテンシャル、エリアごとの未来図、 エリア同士の連携など	15
第 1 章	計画の概要 計画期間、計画対象区域	6	第 6 章	まちなかの公有地利活用 公有地利活用の方針	32
第 2 章	検討の経緯 策定体制・経緯、策定までの 取組、組織概要	7	第 7 章	まちづくりの進め方 推進体制、ロードマップ	33
第 3 章	まちなかの課題 まちなかの課題	10	コラム		
第 4 章	まちなかが目指すまちづくり あいことば、コンセプト	12		▶ 一足お先にやってみた！ (まちなか魅力向上委員会による社会実験)	35
				▶ 玉名の未来を創る仲間たち (まちなか未来図に関わった人たち)	36

策定の趣旨

玉名駅周辺や玉名市役所旧庁舎跡地周辺は、公共施設や公共交通、住宅や商業施設、事業所といった都市機能が集積するなど、中心市街地を形成してきた市の中心部（まちなか）として、これまで市全体の暮らしや経済をけん引してきました。

しかし、少子高齢化による人口減少が進む中で、近年、空き家や空き店舗が増加するなど、まちなかにおいても魅力やにぎわいが低下してきています。まちなかの衰退は、市全体の活力と魅力の低下にもつながります。このため、まず市の中心であるまちなかの活性化に取り組み、その効果を市全域に広げていきたいと考えています。

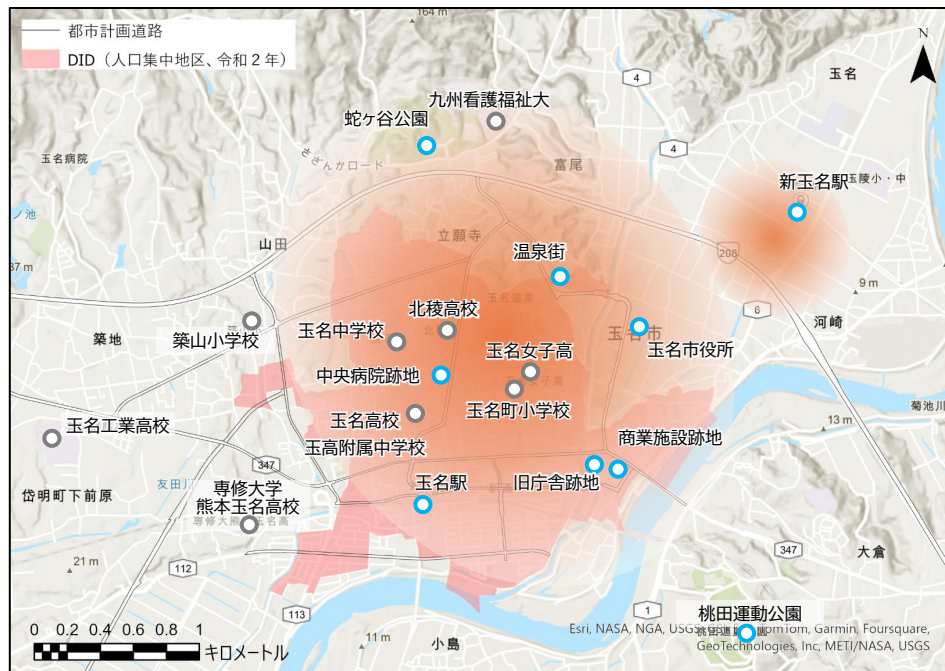
そこで、まちなかの活力と魅力を高め、市民が健康で笑顔あふれる良質な暮らしが実感できる「にぎわいのあるまちづくり」に取り組むため、令和5年度に「玉名市まちなか未来プロジェクト」を発足しました。

そして、まちなかの未来に向けた将来像をみんなで描き、共有するための指針として、「～玉名市まちなかグランドデザイン～まちなか未来図」（以下、「まちなか未来図」という。）を策定しました。

このプロジェクトでは、市民・事業者などの民間と行政が連携し「共に考え、共に動き、共に創り出す、幸せを実感するまちづくり」に持続的に取り組んでいきます。それが、市民の笑顔があふれ、その笑顔が魅力となって人を呼び込むまちにつながるものと考えます。

このまちなかでの取組が市全域へと広がり、各地域が連動して玉名の魅力を高めていく取組へとつなげていきます。





策定体制・経緯

まちなか未来図の策定に当たっては、市民と行政、関係者が参加した「玉名市まちなか未来プロジェクト」により2年間の検討を重ねてきました。

令和5年度は、行政内の組織である「玉名市まちなか未来プロジェクトチーム」で、まちなかにおける全体的なまちづくりの構想となる「まちなかランドデザイン原案（たたき台）」を作成しました。

令和6年度は、有識者と商業・観光・教育・交通など各分野の代表で構成される「玉名市まちなか未来デザイン協議会」と、公募で集まった本プロジェクトの実行組織となる「まちなか魅力向上委員会」の2つの組織からなる「玉名市まちなかプラットフォーム」を設立し、市民目線での原案の見直しを行いました。

まちなか魅力向上委員会は、市民・事業者・行政など様々な人々が参加した「まちなか出前ワークショップ」や「市民拡大ワークショップ」での意見を参考に、玉名市まちなか未来プロジェクトチームとの間で協議を重ね、「まちなか未来図」への提案内容を検討しました。

その後、原案とまちなか魅力向上委員会からの提案を基に作成した「まちなか未来図」の案を、玉名市まちなか未来デザイン協議会で議論し、市民意見の公募（パブリックコメント）を行ったうえで、最終とりまとめを行いました。

このように、市民、事業者、行政など玉名市のまちなかを想う様々な立場の「みんな」が話し合いを重ねながら、「まちなか未来図」を策定しました。



玉名市まちなか未来プロジェクト

玉名市まちなかプラットフォーム

各分野代表

玉名市まちなか未来デザイン協議会

↑ まちなか未来図の審議、とりまとめ

実行組織

まちなか魅力向上委員会

↑ まちなか未来図への提案内容の検討 / 社会実験の実施

まちなか出前ワークショップ

市民・民間団体などの想い

市職員

玉名市まちなか未来プロジェクトチーム

原案作成

パブリックコメント

玉名市

～玉名市まちなかランドデザイン～
まちなか未来図 策定・公表

市民拡大ワークショップ
市民・事業者・行政など
みんなで考えたアイデア

策定までの取組

玉名市まちなか未来プロジェクトチーム

【活動内容】

- プロジェクト事務局会議 計30回
- プロジェクトチーム会議 計11回
- 跡地活用分科会 計10回

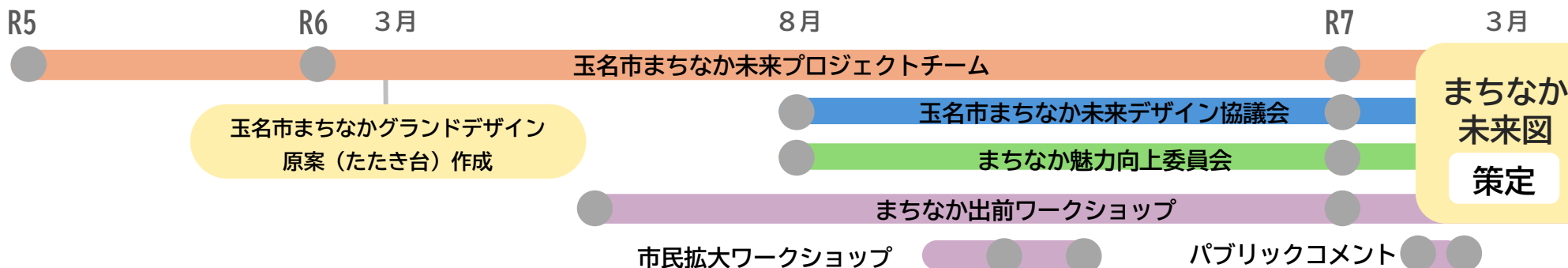


まちなか魅力向上委員会

【活動内容】

- 委員会 計8回
- 社会実験班 計3回
- グランドデザイン班 計5回
- その他ミーティング 計14回

※令和6年度は、社会実験を企画・実行する社会実験班とグランドデザインへの提案内容を検討するグランドデザイン班を設け、各々に分かれての活動も行いました。



まちなか出前ワークショップ

市民・民間団体等 計11回（10団体）



市民拡大ワークショップ

市民・事業者・行政などによるワークショップ 計2回



玉名市まちなか未来デザイン協議会

協議会 計3回



玉名市まちなか未来プロジェクトの組織概要

玉名市まちなかプラットフォームとは

玉名市まちなかプラットフォームとは、官民連携によるまちづくりを推進するため、まちづくりの担い手である市民や企業、商工・観光・金融関係者、自治会、学識者、行政などが集まり、目指すべきまちづくりの将来像実現に向けた取組について協議・調整・実行するための場（組織）です。本市では「玉名市まちなか未来デザイン協議会」と「まちなか魅力向上委員会」の2つの組織で「玉名市まちなかプラットフォーム」を構成しています。各々が役割を分担し活動を行っています。

玉名市まちなか未来デザイン協議会とは

「まちなか未来図」の策定にあたって、計画をより良いものにするため、専門的な立場から助言・支援する組織です。

まちづくりに精通した学識経験者や商業・観光・教育・交通など各分野の代表22名で構成されており、「まちなか未来図」の案について確認・助言が行われました。今後、プロジェクトの進捗管理・審議・計画の改定、支援などを行う組織となります。



まちなか魅力向上委員会とは

玉名市まちなか未来プロジェクトを推進・実行する民間組織です。市内で様々な活動をしている人たちが公募により集まり、現在14名のメンバーで活動されています。

「まちなか未来図」の策定に当たっては、話し合いや提案などが積極的行われました。今後は「まちなか未来図」の実現に向けて、行政と連携し、主体的な活動をする組織となります。



玉名市まちなか未来プロジェクトチームとは

玉名市まちなか未来プロジェクトの実行にあたり、庁内の横断的な組織として、令和5年4月に設立しました。玉名市まちなか未来プロジェクトチームには、担当業務に関係なく、まちづくりに関心の高い職員が集まり「まちなか未来図」の原案作成を行いました。「まちなか未来図」の実現においても、まちなか魅力向上委員会など市民と連携しながら、主体的な活動をする組織となります。

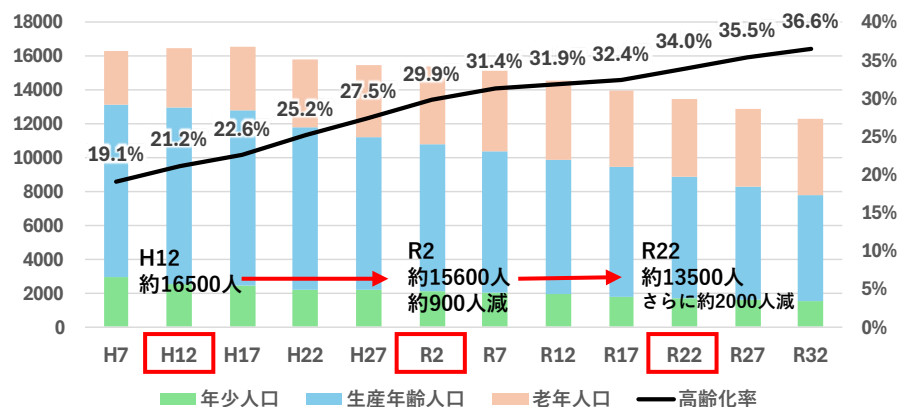


まちなかの課題

人口減少や高齢化、空き家等の増加、商業活力の低下等が進み、まちなかのにぎわいや魅力、利便性が低下してきています。

●進む人口減少・高齢化

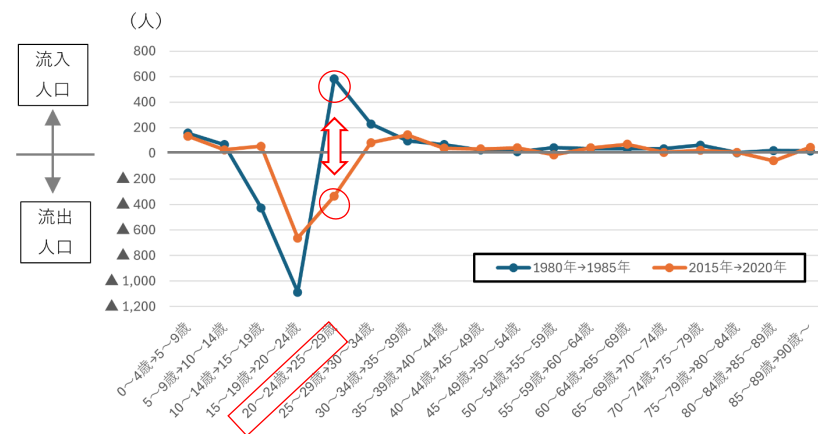
まちなかエリア内の人口は、令和2年を基準として20年前（平成12年）と比較し約9百人減少、高齢化率は約9%上昇しました。今後も人口減少・少子高齢化は続き20年後（令和22年）にはさらに約2千人の人口が減り、高齢化率は約34%になる予想です。



▲まちなかエリア内の人口・高齢化率
(国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所資料を加工)

●若者の流出

転入・転出状況では、1980年～1985年では15歳前後から市外流出していた人の一部が25歳前後に戻っていましたが、2015年～2020年では流出が多く、若者が市外に出たあと玉名市に戻ってきていないことが分かります。



▲年齢階級別人口移動状況(国勢調査)

まちなかの課題

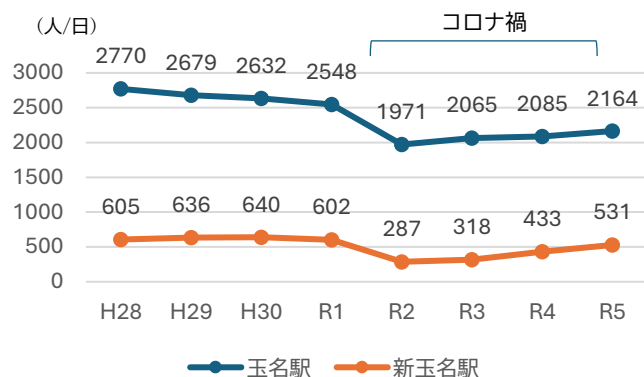
●空き家の増加

玉名市の空き家率は全国（13.8%）・県（14.9%）の平均に比べて高い約17.2%です（令和5年住宅土地統計調査）。

また、玉名市内の中でもまちなかに空き家戸数が増えています。今後、人口減少とともに、さらに空き家や空き地の増加が懸念されます。

●駅利用者数の減少

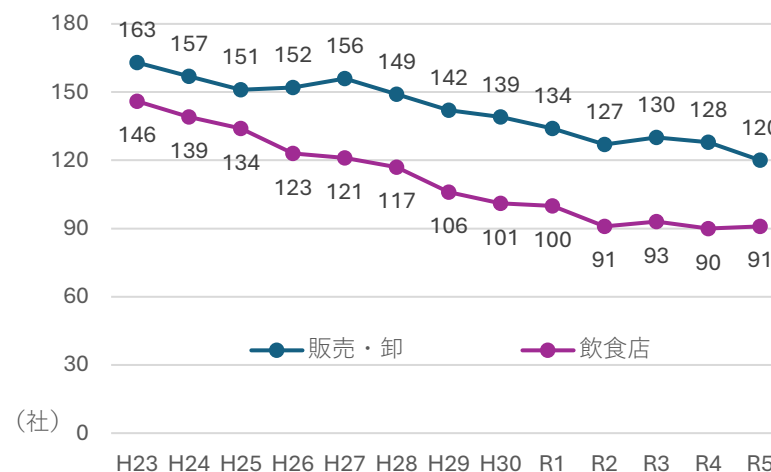
玉名駅、新玉名駅の駅別乗車人員は、コロナ禍を経て、回復傾向にはありますが、長期的には減少傾向にあります。



▲駅別乗車人員(JR九州「駅別乗車人員上位300駅」)

●まちなかの商業活力の低下

まちなかでは、販売や飲食など商業系の事業所・店舗等の数が減少傾向で、商業活力の低下がうかがえます。



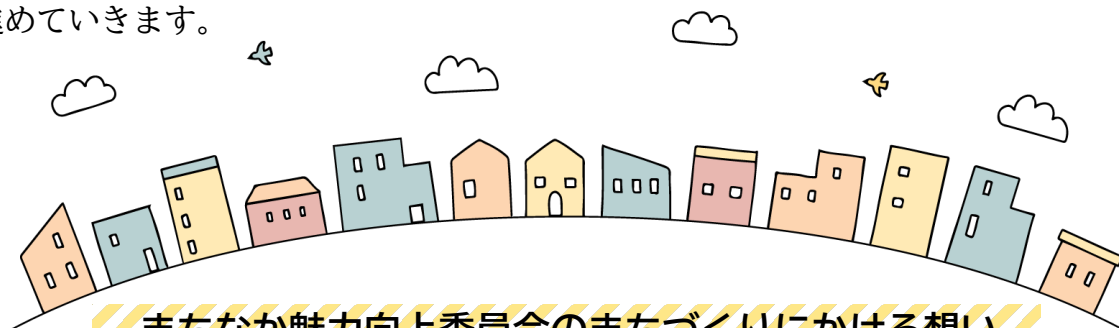
▲まちなかエリアの事業所立地動向
(RESAS)

まちづくりの「あいことば」

みんなであつくり！ 幸せ実感、大好き玉名

誰もが幸せを実感し、笑顔で「玉名大好き！」と自信を持って語れるまちを未来の世代に引き継いでいくためには、私たち一人ひとりが自分たちのまちに意見を出し合い一緒に行動していくことが大事だと考えます。

そこで、『みんなであつくり！ 幸せ実感、大好き玉名』を私たちが目指すまちづくりのあいことばとして、まちづくりを進めていきます。



まちなか魅力向上委員会のまちづくりにかける想い

玉名は海・川・山・温泉などの自然の恵みを受け発展してきており、自然・歴史・文化といった他の地域にない玉名らしい特色や魅力であふれています。一部の方からは「玉名は良いところだけど何もない」と言う話も聞きますが、私たちは玉名の強みを生かし、笑顔で「玉名大好き！」と自信を持って語れる、魅力的で幸せを実感できるまちを自分たちで創り育て、未来の世代に引き継いでいくことが大切だと考えます。

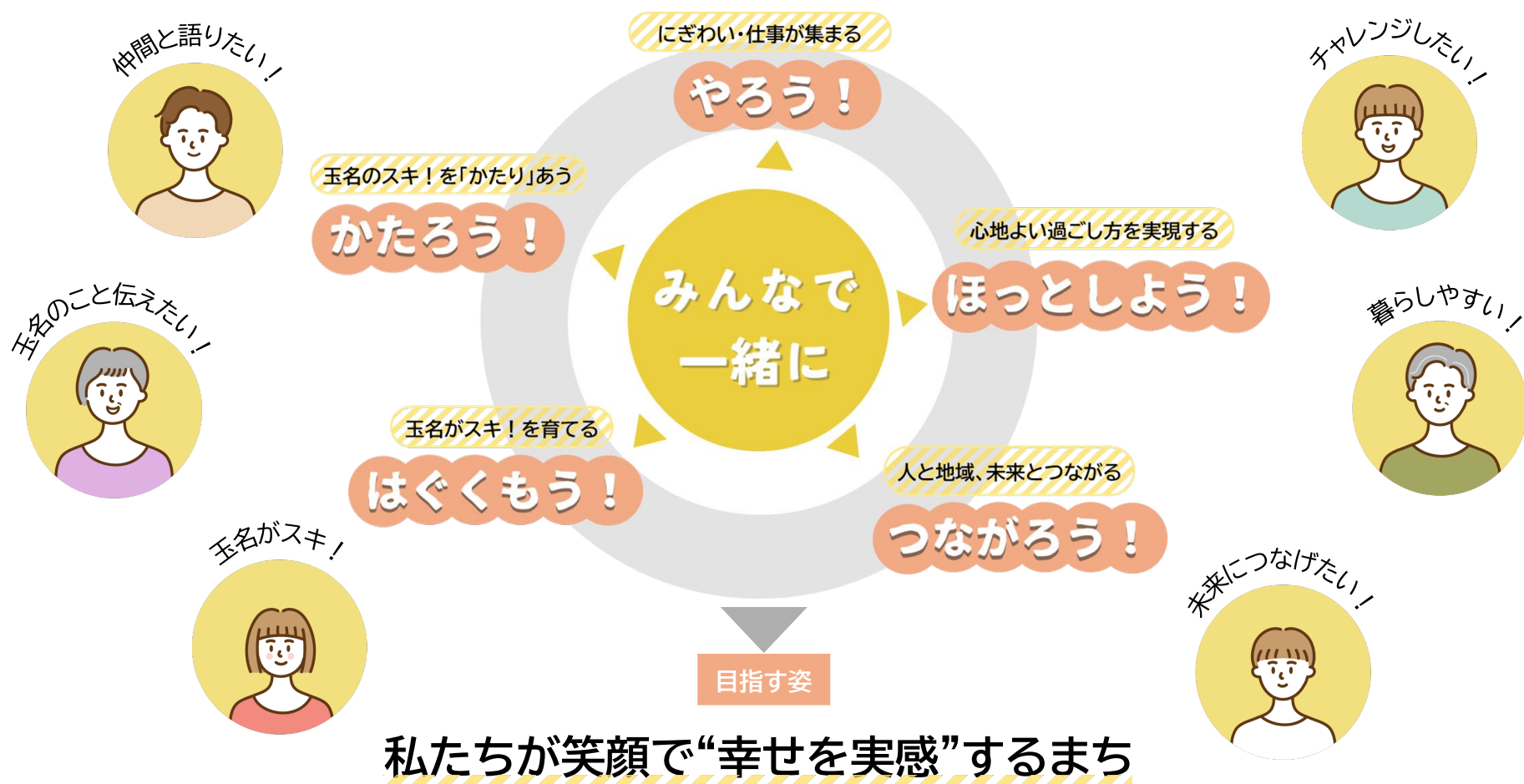
幸せを実感できる暮らしは人それぞれですが、幸せを実感できるまちを創り出すためには、一人ひとりが自分の思いを持ち寄り、語り合い、一緒に行動を起こすことが重要です。

そこで、この「まちなか未来図」を指針に市民・事業者・行政が協力することで、「みんなであつくり！ 幸せ実感、大好き玉名」を共に実現したいと考えています。

「幸せ実感」を実現するための5つのコンセプト

「幸せを実感するまち」を実現するためには、一人ひとりがやりたいことや仕事にチャレンジできる環境（やろう！）、幸せ実現のために「かたり」あうことのできる仲間（かたろう！）、誰もが暮らしやすさを感じる生活環境（ほっとしよう！）、玉名が好き！と自慢したくなるようなまちなかの人や魅力（はぐくもう！）などをつくっていき、次の世代につなげていく（つながろう！）ことが重要です。

そこで、『みんなで一緒に「やろう！」「かたろう！」「ほっとしよう！」「はぐくもう！」「つながろう！」』の5つのコンセプトを掲げ、まちづくりに取り組んでいきます。



コンセプト

「幸せを実感する」まちの未来に向けて、5つのコンセプトでまちづくりに取り組みます。

やろう！ にぎわい・仕事が集まる

やりたい遊びや仕事にチャレンジし、実現できるまちなか
玉名市の中心地であるまちなかのにぎわいの向上は市全体の活力を高める上でも重要です。
買い物や交流を楽しんだり、生き活きと働いたり、やりたいことができる、そんな魅力的なまちなかづくりを進めます。

- 取組例 | 商業施設誘致、空き家活用 など

ほっとしよう！ 心地よい過ごし方を実現する

家族や仲間たちとほっとする場所や時間をみんなで作り、共感できるまちなか

多くの人が集まるまちなかは、みんなが心地よさを実感し、ほっとした時間を過ごせる場所であることが重要です。
誰もが安心し、快適に暮らせる居心地の良い環境の整備や安全対策などを進めます。

- 取組例 | ほっとする環境づくり、防災機能の充実 など



かたろう！ 玉名のスキ！を「かたり」あう

楽しく、自由に思いを語り、集いに参加できるまちなか

「まちなか未来図」の策定に当たっては市民・事業者・行政など多くの人が集いたくさんの話し合いを重ねてきました。
今後も、玉名のスキ！に対するみんなの想いを語り合い、だれでも参加しやすい場づくりを進めます。

- 取組例 | 子育て世代の交流、スポーツや音楽を通じた交流 など

はぐくもう！ 玉名がスキ！を育てる

仲間や、何よりも大切な子どもたちと一緒に
地元の歴史・文化・自然を育むまちなか

私たちが自信を持って「玉名大好き」と語れるまちや人を、子どもたち・これから先の未来を担う人たち・地域・行政と一緒に育み、共に育ちあう取組を進めます。

- 取組例 | まちづくり人材の育成、地域資源（宝）の利活用 など

つながろう！ 人と地域、未来とつながる

歴史と文化、社会・経済や多様な人々と、
みんながつながり支え合うまちなか

大切に受け継がれてきた歴史・文化や、温泉・食などのまちなかの魅力を市内外の人に発信するとともに、人と地域がつながり、これらを未来へとつないでいく取組を進めます。

- 取組例 | 世代間交流の促進、SNSでの発信 など

エリアイメージ

まちなかエリアを6つのエリアに分け、エリアごとの将来像としてエリアイメージを設定し、各エリアの特色やポテンシャルを生かした取組を進めます。



エリアごとの特色とポテンシャル

玉名のまちなかは、利便性の高い駅周辺や温泉街、歴史的特徴を持つエリアなどそれぞれのエリアで異なる特色やポテンシャルを持っています。地域のつながりなども加味し、「玉名駅」「駅通り」「高瀬・繁根木」「温泉」「文教」「新玉名駅」の6つのエリアに分け、それぞれの特色を生かしたまちづくりを進めます。

●まちなかエリアの特色・ポテンシャルとエリア分け



●まちなかエリア全体に関するポテンシャル

未来を担う仲間や子どもたちがいる！

まちなかでは、様々な活動・取組を行っている市民・民間団体が活躍しています。また、学校が多く立地し、高校生や大学生など次代を担う若者が集まる場所でもあります。地域と若者のつながりが、玉名の将来を担う仲間や子どもたちを育むきっかけとなり、今後のまちづくりにとって鍵となる重要な要素です。



活用できる「資源」がある！

空き家なども「活用」の視点で見るとポテンシャルのひとつです。特に、旧庁舎跡地や中央病院跡地などまとまった土地は、新たなにぎわいや交流を生む拠点となる場所として、活用が期待されます。



「おいしい」魅力がたくさん！

玉名ラーメンや玉名産の農産物など、市内外の人を魅了するおいしいものがたくさんあるのも特徴です。



エリアごとの特色とポテンシャル

玉名駅エリア

- 玉名駅は乗車人員が県内7位
- バス、鉄道など利便性が高い
- 駅前でのイベント等が行われている



空き店舗などを活用してカフェや飲食店が増えたらもっとにぎわうかも？

駅通りエリア

- 駅が近くて便利
- スーパーがある
- 飲食店が多い
- 居酒屋など夜のお店が多い



駅に近い利便性を生かして食べ歩きやまち歩きができるようになると楽しそう！

高瀬・繁根木エリア

- カフェやラーメン屋など店舗が多い
- 高瀬裏川の花しょうぶなど景観が良い
- 古い町並みや寺社、大俵まつりなど歴史文化が残っている



高瀬裏川や古い町並みをさらに生かせると、訪れる人が増えたり玉名の歴史文化を若い世代に伝えやすいね！

温泉エリア

- 温泉・足湯がある
- 蛇ヶ谷公園など自然が豊か
- 県北唯一の4年制大学がある
- 高齢化率が最も低いエリア



アクセスを良くしたり、温泉をPRしてもっと生かせたら、インバウンドや他県からの観光客も増えるかも？

文教エリア

- 学校が多い
- 吹奏楽が盛ん
- おいしい飲食店がある
- 冬のイルミネーションがきれい



学生が楽しめる場所や若いうちからまちづくりに参加する機会が増えると玉名愛が強くなりそう！

新玉名駅エリア

- 新幹線を利用した高速アクセス
- 田園風景がある
- 市外からの来訪者が最も多いエリア



まだまだ発展途上な駅周辺、利便性を生かした施設や住宅地ができるとまちの活力が増すね！

玉名駅エリア

現況・課題

玉名駅エリアは、通勤・通学者など多くの人に利用されていますが、周辺の店舗・飲食店等は少ない状況です。公共交通利用者が減少傾向にある中で、利便性が高く魅力のある駅前をいかに維持・改善していくかが課題です。

まちなかの玄関口

市民と行政等が協力し、訪れる人々が自分時間を楽しむことができる空間づくりや、情報発信、玉名駅の再整備等を通じて、心地よく魅力的な玄関口づくりを目指します。

やろう！

にぎわい・仕事が集まる

待ち時間を楽しく過ごすことができる空間づくり

- 空き店舗や公共空間を活用したオープンカフェや屋台村、若者向けのスポーツができるオープンスペースの設置
- 学生や周辺住民が利用できる勉強・図書スペースの設置
- 宿泊施設の整備 など

ほっとしよう！

心地よい過ごし方を実現する

交通結節機能の改善

- 玉名駅の再整備や玉名市骨格幹線道路の整備、パークアンドライド駐車場の拡充、駅周辺のバリアフリー化などによる乗換機能の充実
- シェアモビリティなど新たな移動手段の確保 など

安全で心地よく使える駅前空間づくり

- 駅周辺の美化や街路灯等の維持管理による夜間も安心して利用できる駅前空間の形成 など

かたろう！

玉名のスキ！を「かたり」あう

まちなかの玄関口としての情報発信・イベントの実施

- フリーボードや情報案内板を活用した市の魅力発信
- マルシェやコンサート、eスポーツ大会などの駅前でのにぎわいイベントの開催 など



玉名駅エリア

エリアの未来図

通勤・通学者やまちなかを訪れる人みんなが自分時間を楽しむことができる、まちなかへの出発点となるエリア

交通結節機能の
改善

店舗・飲食店のにぎわい

駅前広場での
イベント等の実施

歩きやすくバリアフリーな
駅・道路環境

待ち時間を楽しく過ごす
ことができる空間づくり

まちなかの玄関口としての
情報発信・イベントの実施

安全で心地よく使える
駅前空間づくり



駅通りエリア

現況・課題

駅通りエリアは、玉名駅に近い商店街として利便性が高い場所ですが、歩道が狭い、空き店舗が多いといった状況から通りを歩く人が少なくなっています。いかに歩いて楽しい環境を整備していくかが課題です。

駅とマチを楽しくつなぐ寄り道エリア

市民と行政等が協力し、様々な業種の出店や休憩場所の設置、イベントを開催することでにぎわいを創出したり、歩行者優先のまちづくりを進め、一日中、寄り道を楽しめる居心地の良いエリアを目指します。

やろう！

にぎわい・仕事が集まる

寄り道したくなる居心地の良いにぎわい空間づくり

- 空き店舗や公共空間を活用した飲食店やキッチンカーの出店促進
- 休憩場所の設置や歩行者天国の実施
- 若者やインバウンド観光客向けの文化体験の場の提供 など

ほっとしよう！

心地よい過ごし方を実現する

歩行者中心で訪れやすく暮らしやすい空間づくり

- 歩道整備、休憩場所、駐車場の整備による歩行者中心の空間づくり
- 高齢者や子育て世代が暮らしやすい機能の充実 など

かたろう！

玉名のスキ！を「かたり」あう

いろいろな世代に駅通りを散策してもらうための情報発信・イベントの実施

- 駅通りを楽しみながら歩いてもらうための祭りや音楽イベント、ウォーキングイベント、夜市の開催 など

つながろう！

人と地域、未来とつながる

相互に助け合える仲間づくり

- 高齢者や子育て世代と地域とのつながりづくり など



駅通りエリア

エリアの未来図

まちなかを訪れる人や働く人々が、昼も夜も通りを散策し、ふらりと立ち寄り楽しく過ごす、暮らしやすさと居心地の良さを兼ねそろえたエリア

歩行者中心で訪れやすく
暮らしやすい空間づくり

相互に助け合える
仲間づくり

キッチンカーの出店

いろいろな世代に駅通りを
散策してもらうための
情報発信・イベントの実施

歩道空間を活用した
屋台などの出店

寄り道したくなる居心地の
良いにぎわい空間づくり



高瀬・繁根木エリア

現況・課題

高瀬・繁根木エリアは、高瀬裏川の花しょうぶや歴史・文化的な資源、カフェ・ラーメン屋等の飲食店など魅力的な資源が多くあります。一方で、他のエリアに比べ高齢化率が高い状況にあり、魅力的な資源をいかに次世代につなげていくかが課題です。

風情ただよう、“うろんころん”エリア

市民と行政等が協力し、まちなかの公有地や高瀬の町並み、地域資源の魅力を生かし、歩行者中心の快適な空間づくりや防災機能の充実を図ることで、ぶらりと歩き回る楽しさ(うろんころん)を感じつつ、安心して過ごせるまちづくりを目指します。

やろう！ にぎわい・仕事が集まる

高瀬の町並みを生かした新しいチャレンジ空間づくり

- 高瀬の町並みにマッチした、人が集まり交流できる店舗やチャレンジ施設の整備及び空き家の活用 など

ほっとしよう！ 心地よい過ごし方を実現する

歩行者中心で訪れやすく暮らしやすい空間づくり

- 歩道整備、憩いの場、駐車場の整備による安全で快適な歩行者中心の空間づくり
- 商業施設跡地の活用
- 防災機能の充実による安全・安心なまちづくり など

つながろう！ 人と地域、未来とつながる

歴史・文化・景観資源の保全・活用や、相互に助け合える仲間づくり

- 地域の歴史資源（日本赤十字社発祥ゆかりの地など）の保全・活用や郷土料理・ソウルフードなどの伝承
- まちづくりに向けた地域内の連携や近隣地域との連携 など

かたろう！ 玉名のスキ！を「かたり」あう

地域資源（歴史・文化・自然）を満喫する取組

- 地域の歴史や魅力の情報発信
- 菊池川、鶴の河原などでのアクティビティ実施
- 高瀬裏川や古い町並みを生かしたイベント（まち歩き、夜市、蚤の市、マルシェ） など

はぐくもう！ 玉名がスキ！を育てる

地域を学び、地域を好きになる人が増える取組

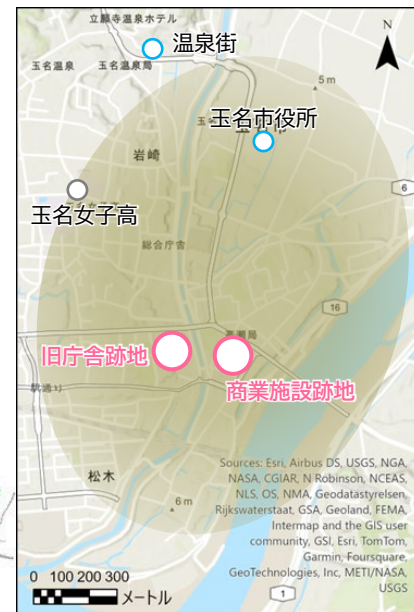
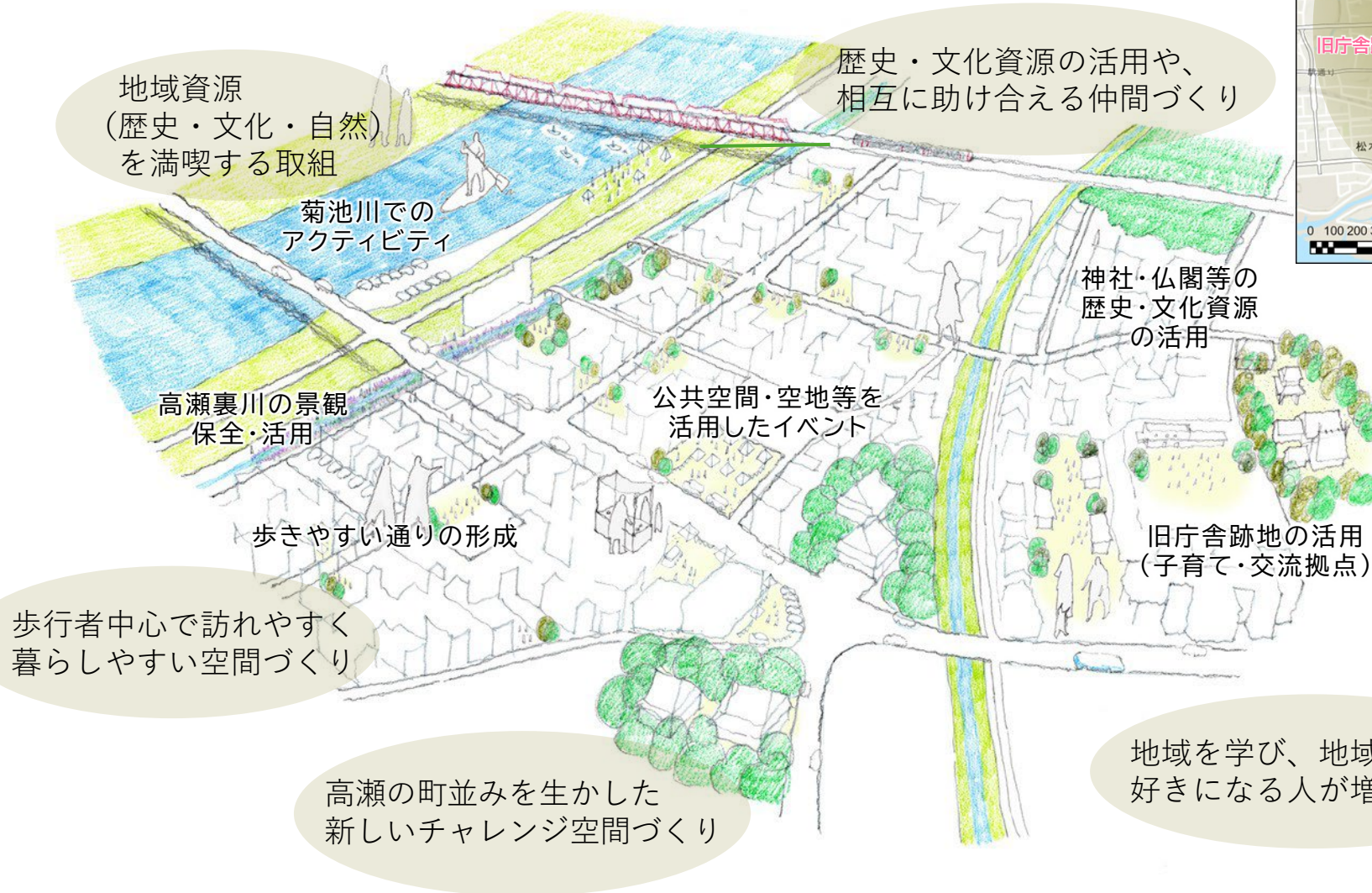
- 旧庁舎跡地を活用した子育て・交流拠点の整備
- 地域教育やコミュニティ育成のための、地域の子どもや大人も集まる寺子屋の開催 など



高瀬・繁根木エリア

エリアの未来図

市民やまちなかを訪れる人が歴史や文化を感じたり、菊池川の自然の恵みに触れることができる、人に紹介したくなるエリア



温泉エリア

現況・課題

温泉エリアは、玉名市を代表する観光地のひとつであるとともに、市民にとっても身近で憩える温泉地ですが、市民ワークショップ等ではそのにぎわいの低下が指摘されています。観光客や市民にとっての魅力をいかに再生・向上させるかが課題です。

元気が湧く、くつろぎエリア

市民と行政等が協力し、温泉地の魅力を生かした景観づくりや歴史資源を生かしたPR、イベント開催を行い、公園や通りを浴衣でそぞろ歩きをするなど、温泉地ならではの楽しめる環境づくりを進め、訪れる人々がゆったりとくつろぎ、元気になれるエリアを目指します。

やろう！ にぎわい・仕事が集まる

温泉地の魅力を最大限に発揮する取組

- 温泉を生かした商業・運動施設など人が集まる空間づくり
- eスポーツ大会などのにぎわいイベントの開催
- 空き家を活用した宿泊施設の整備促進 など

かたろう！ 玉名のスキ！を「かたり」あう

温泉街や蛇ヶ谷公園での情報発信やイベントの実施

- 観光者向けの情報発信
- 多様なイベントの企画・開催（蛇ヶ谷公園を活用したマルシェやイベント、若者向け・高齢者向けのイベント） など

ほっとしよう！ 心地よい過ごし方を実現する

温泉街の風情を演出する快適な散策空間づくり

- 夜間でも浴衣でそぞろ歩きできる散策路など
風情ある安全で快適な空間づくり など



つながろう！ 人と地域、未来とつながる

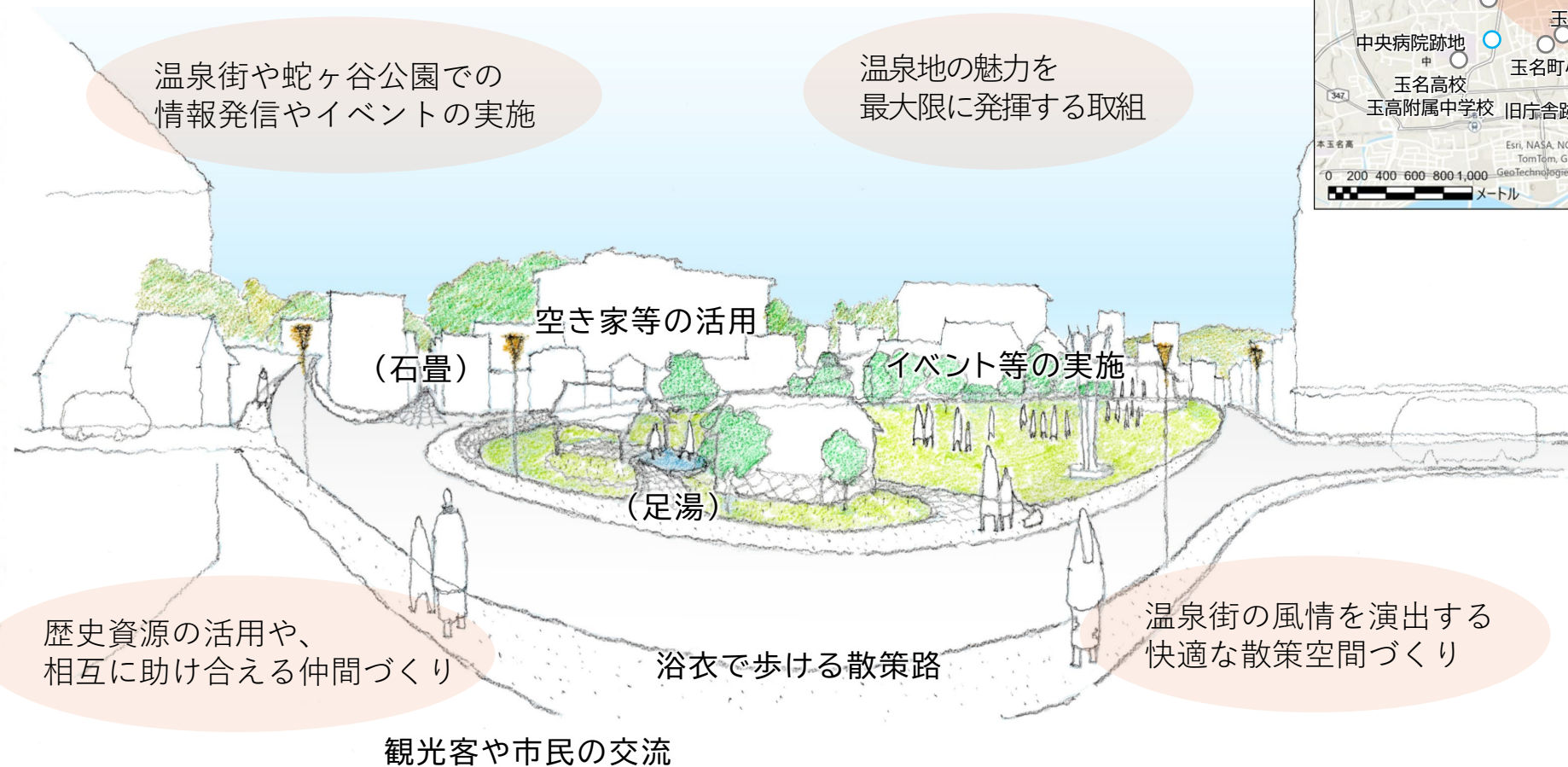
歴史・地域資源の保全・活用や、相互に助け合える仲間づくり

- 歴史資源のPR促進
- 環境保全に向けた活動や活動を通じた新しい交流・仲間づくり
- まちづくりに向けた地域内の連携 など

温泉エリア

エリアの未来図

市民やまちなかを訪れる人が一日中温泉でくつろいだり公園で遊んで過ごし、元気になるエリア



文教エリア

現況・課題

文教エリアは、多くの学校が集中し学生が行き交うエリアで、吹奏楽などクラブ活動も盛んです。一方で、学生や周辺市民が自由に時間を過ごす場所・交流する場所が少ないといった意見もあり、いかにそういったニーズにこたえるかが課題です。

学びと交流エリア

市民と行政等が協力し、中央病院跡地を活用して図書館機能を核とした学びやくつろぎの場など、過ごしやすい環境の整備を進めることで、多世代が集い、共に学び成長できるエリアを目指します。

やろう！ にぎわい・仕事が集まる

中央病院跡地を活用した学びとくつろぎ、交流空間づくり

- 中央病院跡地や公共空間を活用し、図書館機能を核に学び、くつろぎ、交流する空間づくり など

ほっとしよう！ 心地よい過ごし方を実現する

誰もが安全で過ごしやすい環境づくり

- 道路沿道の美化や街路灯等の維持管理による、夜間も安心して往来できる歩行者空間づくり
- 防災機能の充実による安全・安心なまちづくり など

つながろう！ 人と地域、未来とつながる

地域資源の保全・活用や、相互に助け合える仲間づくり

- 地域資源の保全とそれらを活用したまちづくりを促進
- まちづくりに向けた地域内の連携 など

かたろう！ 玉名のスキ！を「かたり」あう

交流イベントによる魅力向上

- 多様なイベントの企画・開催（音楽イベント、マルシェ、夜市）など

はぐくもう！ 玉名がスキ！を育てる

地域と子どもをつなぐ活動の展開

- 清掃活動などを通じた地域と子どもをつなぐ活動
- すべての人々が学び、育みあえる空間づくり
- 地域コミュニティの育成 など



文教エリア

エリアの未来図

中高生をはじめ、多世代の住民が集まり、それぞれの興味を持ったことや、やりたいことに取り組むことができる学びと交流のエリア

誰もが安全で
過ごしやすい環境づくり

歴史資源の活用や、
相互に助け合える
仲間づくり

広場空間を活用した
イベント・出店

屋外広場

交流イベントによる
魅力向上

地域と子どもをつなぐ
活動の展開

中央病院跡地の活用
(図書館・コミュニティスペースなど)

中央病院跡地を活用した
学びとくつろぎ、交流空間づくり



新玉名駅エリア

現況・課題

新玉名駅エリアは、新幹線駅として市外・県外へのアクセス拠点となっていますが、駅周辺整備に取り組んでいるものの店舗や周辺施設が少ない状況です。アクセス性を生かした新たな拠点をいかに形成していくかが課題です。

シン・玉名を創るエリア

民間事業者と行政が協力し、周辺の自然や歴史・景観と調和した商業や宿泊を中心としたにぎわい空間を整備します。公共交通等の充実でアクセス性を向上させ、企業誘致による新たなまちづくりを進め、多様な世代が集う活気ある玄関口のエリアを目指します。

やろう！

にぎわい・仕事が集まる

商業や娯楽、スポーツを中心としたにぎわい空間づくり

- 大型商業・宿泊・スポーツ施設の誘致推進
- 駅前広場や芝生広場など、施設や空間を活用したイベントの開催
- 健康づくりに活用できるランニングコースやサイクリングコースの整備 など

つながろう！

人と地域、未来とつながる

周辺の地域資源との調和を図る

- 周辺地域の資源や散策路、フットパスなどと新玉名駅前との連携
- 近隣地域やまちなか、玉名駅との連携 など

ほっとしよう！

心地よい過ごし方を実現する

利便性が高く暮らしやすい環境整備

- 公共交通の充実やシェアモビリティの導入などアクセス性の向上
- 住宅や公園などの心地よい居住環境の整備 など

はぐくもう！

玉名がスキ！を育てる

地域を学び、地域を好きになる人が増える取組

- 古墳群などへの案内誘導 など



新玉名駅エリア

エリアの未来図

周辺の自然や歴史・景観と調和しつつ市民や観光客、ビジネス利用者などが娯楽、買物、宿泊、健康づくりなどを楽しめる多くの機能がつながるエリア

周辺の地域資源との
調和を図る

商業や娯楽、スポーツを中心とした
にぎわいの空間づくり

周辺に広がる
田園景観

駅前広場での
イベント等の実施

バス・乗合タクシー
などへの乗り換え

利便性が高く
暮らしやすい環境整備

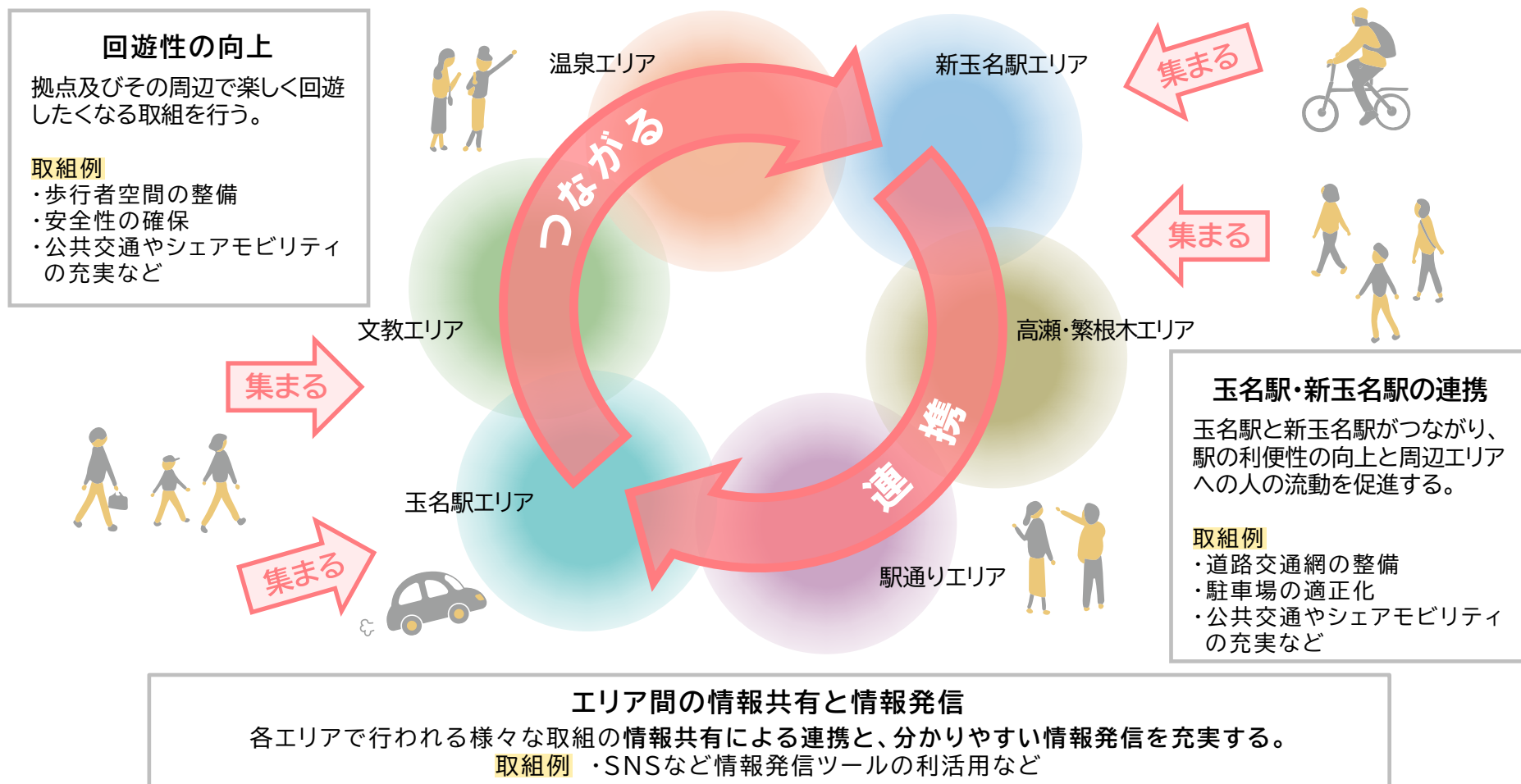
駅周辺への
店舗等の誘導

シェアモビリティ
の導入



エリア同士の連携

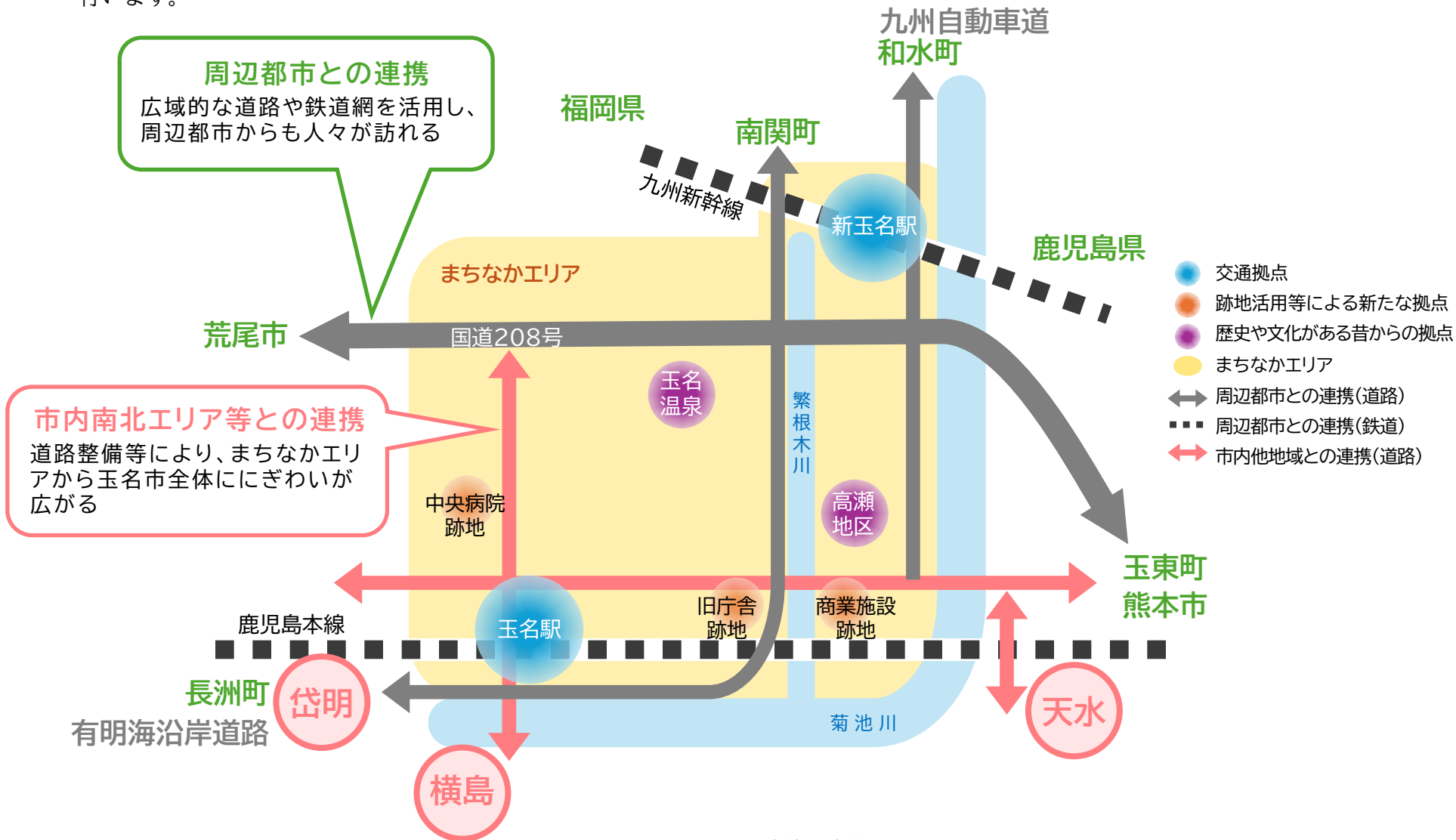
まちなかの6つのエリアが特色を生かしながら相互につながり、連携してまちづくりに取り組んでいきます。そのために必要となる歩きやすい環境づくりや公共交通・シェアモビリティの充実などを目指すとともに、各エリアでの取組の情報共有・発信を行います。



▲エリア同士の連携のイメージ

まちなかエリアと周辺地域の連携

まちなかエリアでの取組やそのにぎわいが広がるよう、まちなかエリアと周辺地域や近隣都市とのつながりを強める取組もあわせて行います。



▲まちなかエリアと周辺地域の連携イメージ

公有地利活用の方針

まちなかの主要な公有地(旧庁舎跡地・中央病院跡地・商業施設跡地)については、それぞれのビジョンに基づき、一貫性のある取組を行います。また、それぞれの公有地については、点として捉えるのではなく、周辺との緊密なつながりの中で果たすべき役割を効果的に発揮する拠点としてマネジメントを行います。活用にあたっては、民間事業者等との連携による持続可能かつ創造的な事業手法についても積極的に検討します。

旧庁舎跡地利活用

中心となる行政機能

子育て応援施設
(子どもの遊び場)

避難所機能

ビジョン

子どもが健やかに成長し
親が安らぎを感じる空間

- ・ 子どもが元気いっぱい遊び、学び、成長できる場所
- ・ 親が安心して自分の時間を過ごし、リラックスできる場所

子どもも親も周囲の人も
笑顔になる空間を実現します



中央病院跡地利活用

中心となる行政機能

図書館

コミュニティ
スペース

屋外広場

ビジョン

自分らしく過ごせる家、ともに活動できる基地

- ・ 若者が「憧れる大人」に出会い、そんな大人を目指せる場所
- ・ それぞれが自分の人生の主役となり、やってみたいを实践できる場所
- ・ 悩みがあるときはここを訪れ、人とのつながりの中で自分らしい時間を過ごす場所

ここでの日常が玉名での
いい思い出になる空間を実現します

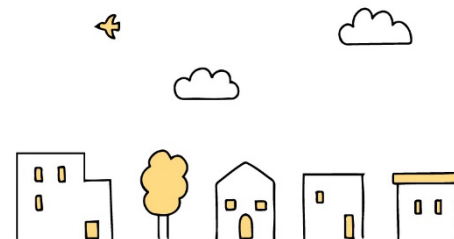


商業施設跡地利活用

ビジョン

地域の回遊性を高める拠点

人の回遊を生み出すことで、
風情ただよう町並みが持つ
ポテンシャルを引き出します



まちなか未来図の実現に向けたロードマップ

「まちなか未来図」の実現に向けて、「何のために」「いつ」「誰が」「何を」「どのように行うのか」必要な取組・施策をまとめた実行計画（アクションプログラム）を策定した上で、できることから取組をはじめていきます。施設整備などそれぞれの事業の具体的な検討においては、計画段階から利用者や事業者等の意向を踏まえながら進めます。

2025年(令和7年)度～
短期的取組

2030年(令和12年)度～
中期的取組

2035年(令和17年)度～
長期的取組

まちなか
未来図

アクションプログラム

策定

実行計画に基づく取組

見直し

実行計画に基づく取組

見直し

実行計画に基づく取組

個別計画の作成・取組の実施

個別計画の見直し

社会実験の実施・効果検証
(トライアンドエラー)

取組の実施・継続

必要な基盤整備の検討

基盤整備の実施

まちづくり活動の継続

自走できる民間組織の構築

取組の実施・継続

新玉名駅周辺整備

整備・開発

整備空間の活用

企業誘致

玉名駅周辺整備

基盤整備の検討・実施

整備空間の活用

旧庁舎跡地活用検討
中央病院跡地活用検討
商業施設跡地活用検討

サウンディング、
各跡地活用
方針の策定

アクションプログラムに
基づく整備

整備空間の活用

まちなか未来図の実現へ

社会実験：市民参加を促す効果的な手法の検証

●まちなか魅力向上委員会が「やってみた！」

趣旨 目的

まちなか魅力向上委員会では、玉名駅前で開催される「受験生応援」をテーマにしたイベント「第3回エキマチクリスマス」（主催：エキマチかたろうピクニック）と連携し、イベントの認知度の向上を図るとともに、市民参加を促す手段の一つとして「受験生応援メッセージ動画」を募集し、取りまとめたものをイベント期間に合わせて放映しました。

また、動画投稿者向けのアンケート調査を実施し、周知方法の違いによる行動の変化について検証を行いました。



▲動画募集のチラシ

●イベントの概要● 第3回エキマチクリスマス 令和6年12月21日(土)16:00~20:00

受験生応援メッセージ動画を
募集し放映しました！

動画の募集期間：令和6年11月19日(火)~令和6年11月30日(土)

動画の放映期間：令和6年12月10日(火)~令和6年12月25日(水)

動画の放映場所：玉名駅構内仮設モニター

動画投稿結果は？

投稿数：111投稿(静止画28/動画83)

協力者：276名(撮影に協力していただいた方)



▲動画放映モニターの設置

検証 結果

アンケート調査の結果、周知方法(メール・掲示板・紙媒体)の違いによる投稿数に大きな差はありませんでした。この結果から様々な周知方法を重ねていくことが必要であることが改めて分かりました。

また、投稿しなかった理由として、「動画」や「顔出し」に抵抗ある人や「忙しかった」とする割合が高くなっていました。この結果から、実施時期や期間、できるだけ気軽に参加できる、ハードルの低い企画内容の重要性が分かりました。



▲動画を視聴する
駅利用者
(玉名駅構内仮設モニター)

まちなか未来図に関わった人たち

大学×まちづくり
の可能性



中野 聡太

玉名市まちなか未来デザイン協議会 副会長
九州看護福祉大学 教授

子どもたちが
輝く玉名に



石津 純子

玉名市まちなか未来デザイン協議会委員
助産師

みんなで
一緒に取り組む



平野 愛子

まちなか魅力向上委員会
地域コミュニティ Aru

大学の資源を活かしながら、地域の大学としてまちの役に立てる仕組みを作っていけたらと思っています。

また、有志の学生と一緒に地域に足を運び、まずはまちを知ることから始めたいです。

将来的には、地域の課題を解決する取組も進めていけたらと考えています。

地域とつながる「産前教育」と「親育て」が最も大切だと考えています。

地域住民との多世代交流を深め、次世代に育児や文化教育を伝承する機会を増やすことで、親子にとっても「親しみを持てるまち」になると良いと考えています。

日本の宝である子どもたちを、みんなで玉名で育てていきましょう！

人は、応援されることや肯定されることで前向きに動けると感じています。

また、対話を重ねたり、同じ時間を共有したりすることで、自然と連帯感が生まれます。

こうしたプロセスを大切にしたい取組が、これからも玉名のまちに広がっていくといいなと思います。

まちなか未来図に関わった人たち

高瀬エリアの
ポテンシャル！



竹内 伯夫

まちなか魅力向上委員会
高専教員

飲食業でも
盛り上げる



米倉 健悟

まちなか魅力向上委員会
飲食店経営者

玉名まだまだ
いけるぞ！



内田 圭祐

玉名市まちなか未来プロジェクトチーム
玉名市 企画経営課

玉名にはたくさんの魅力や資源がありますが、中でも高瀬・繁根木エリアは特に魅力があると感じています。

花しょうぶまつりや花火大会など、市内外の人が訪れる機会もあるので、そうしたイベントをきっかけに、多くの人にまち歩きを楽しんでもらえるようになればいいなと思います。

活気があって、誰もが楽しめるまちにしていきたいと考えています。

そのために、飲食業の視点からまちづくりに意見を発信し、他業種とも連携したイベントを企画しながら、玉名を盛り上げていければと思います。

「玉名、まだまだいけるぞ！」という勢いが生まれてほしいと考えています。

また、民間は「パブリックマインド」を、行政は「プライベートマインド」をもって、お互いが混ざり合いながら活動出来たらいいなと思います。

私自身も、まちの様々な取組にフットワーク軽く参加していきたいです。



～玉名市まちなかグランドデザイン～まちなか未来図

作成日：令和7年3月

発行：玉名市

編集：玉名市まちなか未来プロジェクト

(建設部 都市整備課)

TEL：0968-75-1122

FAX：0968-75-1221

toshi@city.tamana.lg.jp
